

(資料)

中国雲南省の少数民族についての話し

陸 偉東 (雲南大学)

中国は多民族の国で、五十六の民族があります。漢民族のほかの民族を少数民族と呼ばれています〔注：55の少数民族と漢族をあわせて56民族、雲南省には25の少数民族が居住する、以下、注は古川が付したものである〕。

雲南省は中国の西南部にある辺境の省で、総面積は三十九万平方キロメートル余りで、その中には、90%は山地で、平地が少ないです。

雲南省の総人口は四千百万ぐらいで、1/3は少数民族です。漢民族のほかに、彝(イ)族、□(タイ)族、哈尼(ハニ)族、納西(ナシ)族、臧(チベット)族、白(ペー)族、□(ワ)族、拉□(ラフ)族、景頗(ジンポー)族、瑤(ヤオ)族、怒(ヌー)族、僂□(リス)族、壮(チワン)族、回(カイ)族、基諾(ジノー)族、徳昂(トクワン)族、布朗(プーラン)族、蒙古(モンゴル)族、水(スイ)族、布依(ブイ)族、満(マン)族、普米(プミ)族、阿昌(アチャン)族、独龍(トーロン)族、苗(ミョー)族など二十五の少数民族が暮らして、中国で少数民族が一番多い省になります。

一. 雲南省の少数民族の由来

1. 雲南省の原住民からなった少数民族

氏族社会時代、雲南省に羌(チャン)、濮(プー)、越(エツ)三大族群が早期原住民として暮らしていました。雲南省は高原で、山が多くて、交通が不便でしたので、段々地方によって、それぞれの経済、文化の特徴を持っている民族になりました。

羌(チャン)族群

彝(イ)、白(ペー)、哈尼(ハニ)、拉□(ラフ)、阿昌(アチャン)、景頗(ジンポー)、僂□(リス)、納西(ナシ)、怒(ヌー)、独龍(トーロン)族等

濮(プー)族群

布朗(プーラン)、徳昂(トクワン)、□(ワ)族等

越族群

□ (タイ)、壮 (チワン) 族等

2. 北の地方、中原の統治者が雲南に進出して、連れてきた民族

- 戦国時代、楚国の将軍荘番氏が入って漢民族を連れてきました。
- 元の時代、フビライハンが雲南に入ってモンゴル族、回族、プミ族などを連れてきました。
- 清の時代、満 (マン) 族が雲南に入りました。

3. 明、清時代、災害とか、戦争などを避けて、雲南省の周辺の省からきた民族

例えば、苗 (ミョー) 族、瑤 (ヤオ) 族、布依 (ブイ) 族等です。

明の末期、清時代に雲南省の少数民族の分布と名称は形成して安定になりました。各少数民族は大体原始社会、奴隷社会、封建社会を経て発展してきましたが、各少数民族の社会発展はアンバランスでした。中国民主改革期までにまだ原始社会、奴隷社会にしている少数民族がありました。今は民族平等で少数民族も漢民族と同じように発展してきます。

二. 雲南省少数民族の分布

イ族は雲南省少数民族の中で人口が一番多いです。総人口は 345 万ぐらいで、雲南省の大部分地方に分布していますが、楚雄イ族自治州、紅河ハニ族イ族自治州に集中しています。

ペー族の総人口は 115 万人ぐらいで、80%以上は大理ペー族自治州に住んでいます。

タイ族の人口は 85 万人ぐらいで、シーサンバンナタイ族自治州と徳宏ジンボー族タイ族自治州に分布しています。

ナシ族は 26 万人ぐらいで、雲南省の西北部の麗江ナシ族自治州に集中しています。

人口が一番少ない少数民族はトーロン族で、4500 人ぐらいです。雲南省西北部の貢山トーロン族ヌー族自治県のトーロン江の辺りに住んでいます。

ほかの少数民族の分布は地図をご参考ください [注：地図は配布されていない]。

三. 雲南省少数民族の文化

1. 言葉：すべての少数民族は自分の言葉を持っています。民族によって、言葉が違います。

だから、少数民族が集中している地方へ行ったら、通訳がいなければ、話はいけません。

でも、今は民族の間に交流するために、若者は自分の民族の言葉のほかにも中国の標準語(普通語)も勉強して話せます。

2. 文字：イ族、チベット族、タイ族とナシ族は特有な民族文字を持っています。特にナシ



ナシ族のトンパ文字

族の絵文字が面白いです。麗江に暮らしているナシ族は独自の東巴（トンパ）文化を持っていました。東巴文化の精神的な支柱となったのが東巴経で、経典に書かれているのが東巴文字で、ナシ族の象形文字(絵文字)が使われています。

四. 雲南省少数民族の風俗

1. 建物：地方と民族の文化、生活環境などによって、建物の形が違います。南地方の高床式の建物、西北地方の木あるいは土で建てられた建築物、東北地方に見える石で作る建物などが見えます。
2. 服装：民族によって、服装が違います。例えば、シーサンバンナのタイ族女性は体にぴったりの上着と筒型の腰布サロンを着ているので、体の線がでる肉感的な美しさがあります。髪を輪にして後頭部で結んで、日本の明治、大正時代にはやった桃割れに似ています。ナシ族の女性の背に付いている後ろ掛けに七つの星があり、勤勉の意味です。昆明の石林



サニ族女性（未婚）の「ツノ」のある帽子

に暮らしているサニ族の女性がかぶっている帽子に付いている角のような三角はどんな意味でしょうか。サニ族はイ族の一部族で、有名な観光地の石林県に暮らしています。石林へ行って、角のような三角の付いている帽子をかぶっている民族衣装を着ているお嬢さんが見えますが、おばさんたちの帽子に三角が付いていません。聞いてみると、未婚者が強くて、角が出るが、結婚したら、優しい奥さんになりたいので、角を折るそうです〔注：角を帽子の中に折り曲げて入れる〕。

3. 婚姻：すべての少数民族は事由恋愛で結婚して夫婦二人の家庭を作りますが、ある少数民族は特有な婚姻方式を守っています。例えば、シーサンバンナのアイニ族は毎年収穫の季節に豊作を祝うために、みんなが集まってお酒を飲んだり、歌を歌ったり、踊ったりして過ごします。未婚の男女は知り合いになって恋愛しましたが、翌年子供が生まれたら、結婚出来ますが、子供がいなければ、結婚出来なくて、もう一回恋愛できるそうです。麗江地方のモソ人〔注：5万人ぐらい〕は母系社会を守っています。モソ人はナシ族の一部族で奇麗な瀘沽湖の辺りに暮らしています。そこで結婚することがなくて、男女は友達になれば、一緒に生活できます。「アシャ」婚姻と呼ばれています。女性は成人になると、自分の部屋を持ちますが、男性が成人〔注：13歳で成人するという〕になっても自分の部屋がありません。お母さんと住んでいます。でも、好きな女性がいれば、夜その女性の部屋へ行って泊まります。これは「走婚」〔注：「走」は「歩く」、つまり「行ったり来たり」を意味する、「走婚」は「妻処=つまどい婚」、『中国少数民族事典』では「阿注=アチュ婚」と記述する〕と言います。家庭はお母さんを中心として組成します。
4. 葬式：すべての民族は土葬あるいは火葬ですが、チベット族は天葬〔注：鳥葬〕があります。

五. 雲南省少数民族のお祭り

雲南省の各少数民族は自分部のお祭りがありますが、その中、有名なお祭りは次のようです。

1. ペー族の三月街：毎年の旧暦三月十五日から二十一日までにペー族の三月街というお祭りを行います。昔は仏教のお祭りでした。話しによると、南詔国時代（紀元650-655年）、観音様はある年の三月十五日に大理にいらっしゃいました。観音様は悪魔を征服して、仏説を宣伝して、それからペー族人民は幸せな生活を過ごしました。ペー族人民は観音様の恩を感謝するために、毎年の三月十五日に集まって、お経を唱えて、色々な活動をしますが、時代がたって、大理は西南シルクロード〔注：「茶馬古道」というとのこと〕での重要な町になって、民族特色のある市場と伝統お祭りになりました。お祭りの間に、雲南省の各地方の民族や商社が特産物を持って、大理に集まります。とてもにぎやかです。

2. イ族のたいまつ祭り：旧暦六月二十四日に行います。この日に、楚雄、石林などイ族が集まる地方に、昼はイ族式のお相撲や闘牛などの活動があります。夜はみんな1メートルぐらいのたき火を持って、歌ったり、踊ったりして、楽しかったです。もち論、未婚の男女はこのチャンスを利用して、恋愛します。
3. タイ族の水かけ祭り：毎年の四月十三日から十五日までシーサンバンナなど、タイ族が暮らしている地方で行います。タイ族は小乗仏教を信仰します。水かけ祭りは仏教のお祭りです。でも、水かけ祭りについて、一つの伝説があります。話しによると、昔、シーサンバンナに悪魔がいました。悪いことばかりで、七名のタイ族の娘さんを奪って、女房にしました。娘さんたちは幸せな生活のために、悪魔を殺そうと決心しました。ある日、悪魔は娘さんと一緒にお酒を飲むとき、楽しい気持ちを持って、自分の秘密を娘さんに話しました。「おれは力が強いが、弱いところもあるよ。だれかがおれの髪の毛を三本取って、おれの首に締まったら、おれの首が落ちて、死んでしまうよ」と言いました。娘さんはこの話しをよく覚えて、たくさんのお酒を悪魔に勧めました。たくさん酒を飲んで、酔っ払って、ぐっすり眠りました。そうすると、娘さんは悪魔の髪の毛を三本取って、悪魔の首に締めました。本当に悪魔の首が落ちてきました。でも、落ちた首を地面に置いて、火が出てきて、空に投げると、汚い雨が降ります。仕方がないので、七名の娘さんは順番に悪魔の頭を抱きました。娘さんの服装は頭から流れてきた血に汚れました。一週間たって、血が止まって、悪魔が死んでしまいました。幸せな生活ができるタイ族の人達は七名の娘さんに感謝するために、綺麗な水を娘さんの体にかけて、きれいに洗います。この伝説によって、水かけ祭りは伝わってきたそうです。

それぞれの民族はそれぞれのお祭りが多いですが、以上は代表的なお祭りです。

以上は雲南省の少数民族についてのお話しです。ご清聴ありがとうございます。



タイ族の女性（昆明・少数民族村にて）